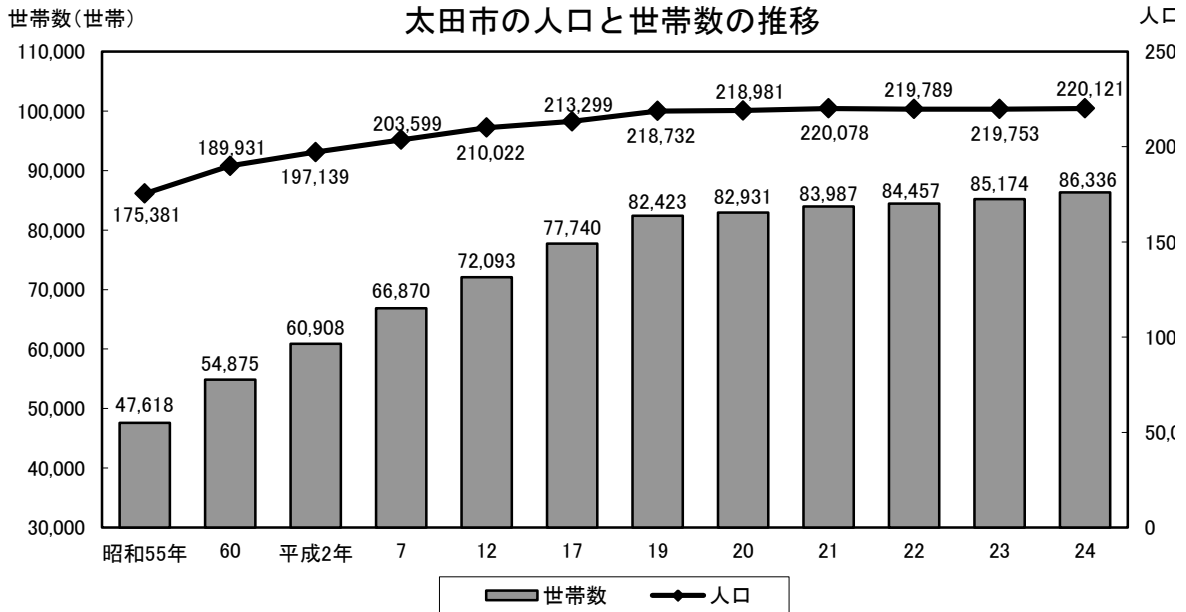




統計から見た現状

(1) 人口及び世帯数

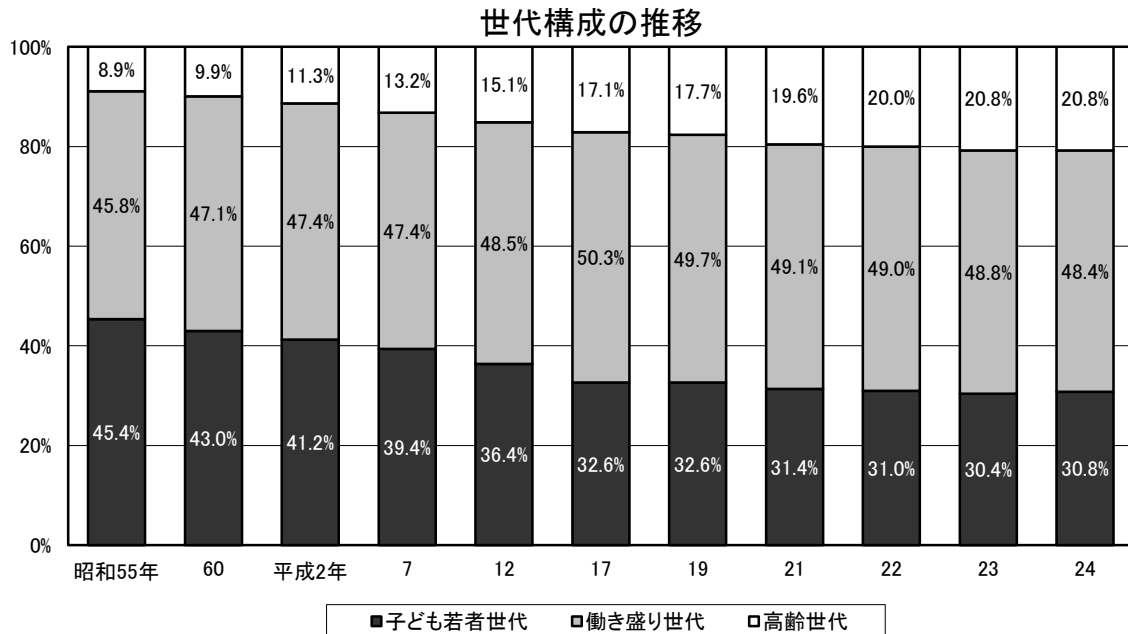
人口を見ると、年々増加しており、昭和55年に比べ平成24年では約4万4千人の増加となっています。また、世帯数も年々増加しており、昭和55年に比べ平成24年では約3万8千世帯の増加となっています。



※出典:昭和55年～17年は国勢調査(ただし、昭和55年～平成12年までは、旧太田市～旧新田町、旧尾島町、旧数塚本町の数値を合計)、平成19年～太田市統計より

(2) 世代構成

世代別の人口割合を見ると、昭和55年に比べ、平成24年は、こども若者世代(0歳～29歳まで)が14.6ポイントの減少、高齢世代(65歳以上)は11.9ポイントの増加となっており、少子高齢化の傾向が見られます。

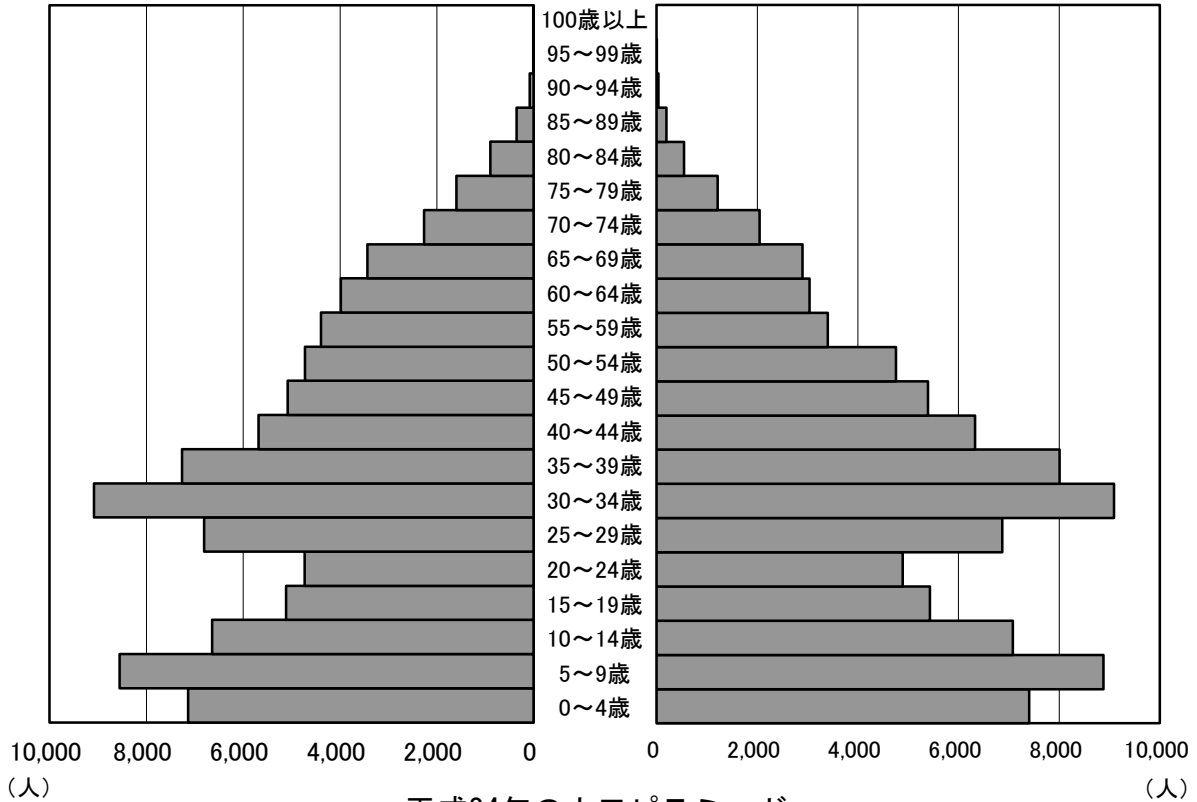


※出典:昭和55年～17年は国勢調査(ただし、昭和55年～平成12年までは、旧太田市～旧新田町、旧尾島町、旧数塚本町の数値を合計)、平成19年～太田市統計より

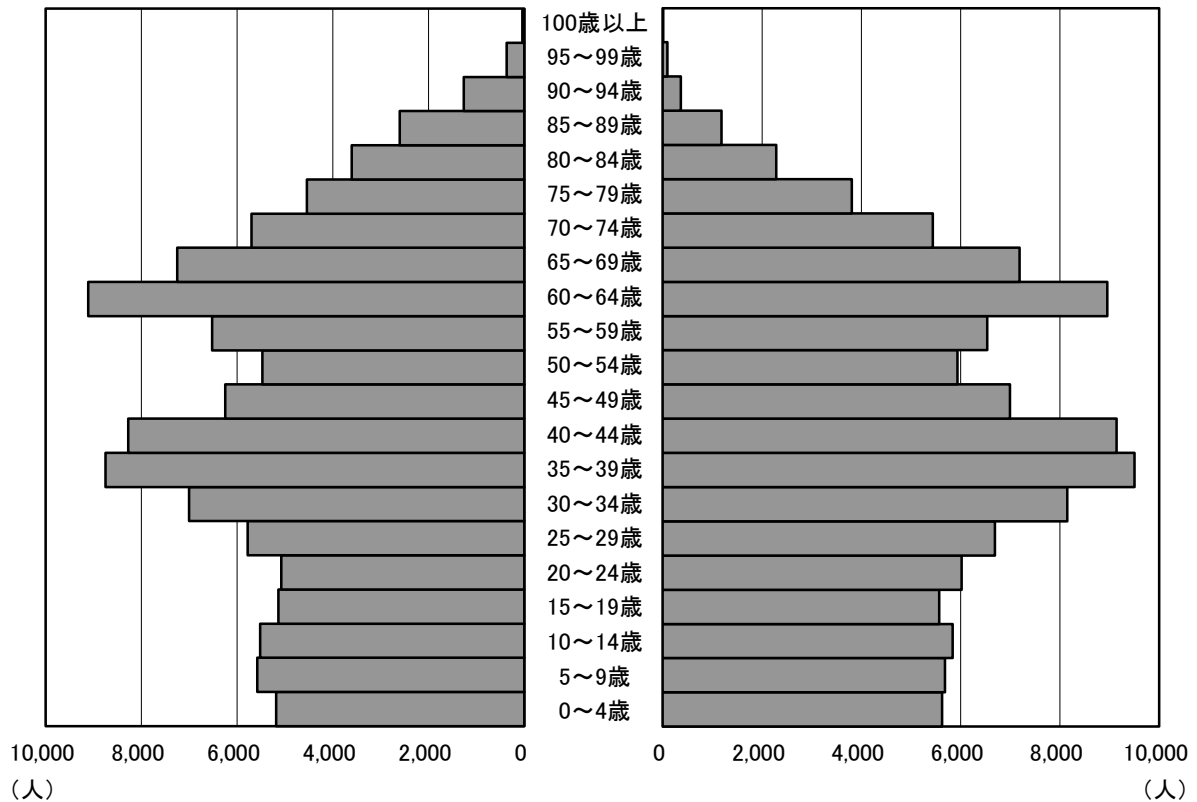
(3) 人口ピラミッドの変遷

昭和55年の人口ピラミッドは通称「星型」と呼ばれ、ベビーブームを反映し、9歳以下及び30歳から39歳が多くなっています。一方、平成24年の人口ピラミッドは「釣鐘型」と呼ばれ、こどもが少なく青年、壮年層が多くなっています。

昭和55年の人口ピラミッド



平成24年の人口ピラミッド

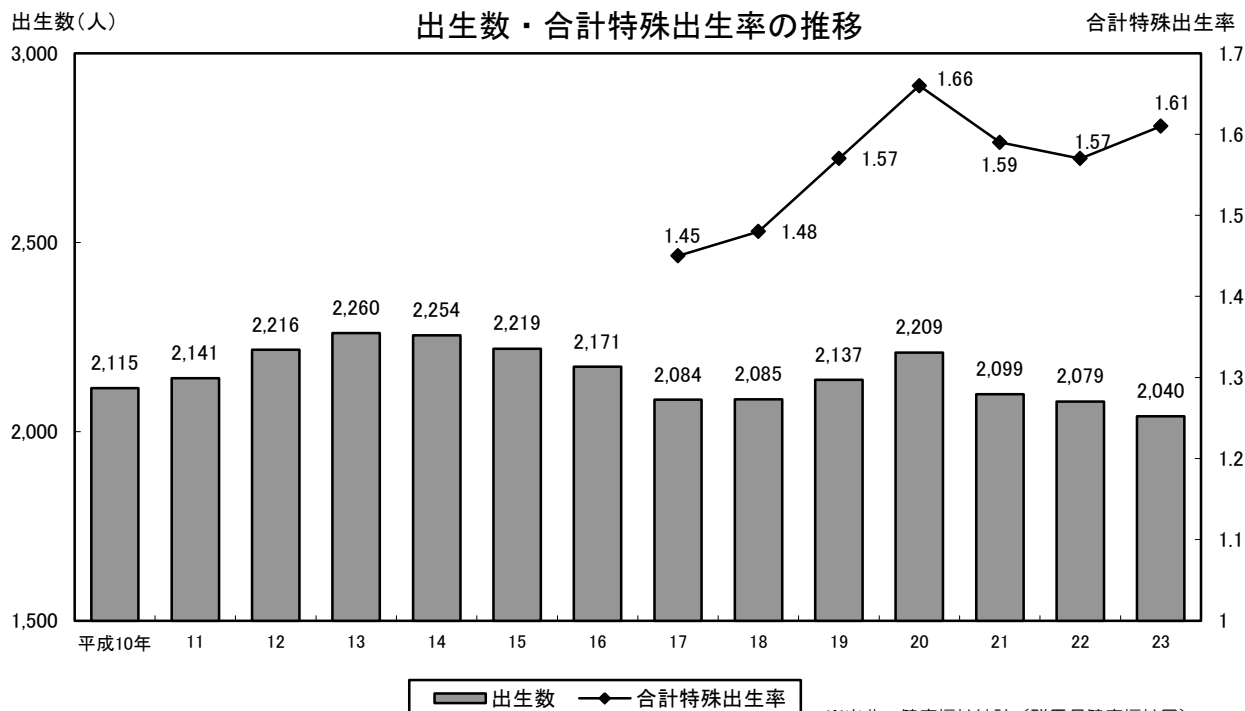


出典：昭和55年は国勢調査、平成24年は太田市統計(平成24年4月1日)より



(4) 出生数の状況

平成20年をピークに出生数は減少しているが、平成23年の合計特殊出生率は増加しています。

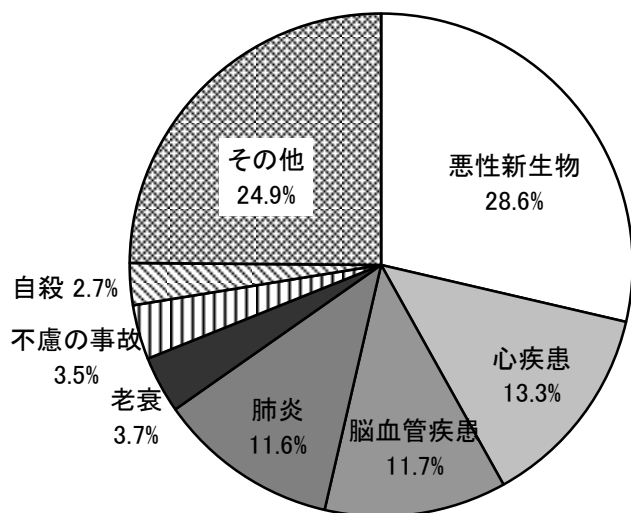


※出典：健康福祉統計（群馬県健康福祉局）
合計特殊出生率は合併後太田市の出生数の数値

(5) 主要死因別死亡者数の割合

悪性新生物（がん）の割合がもっとも高く、心疾患、脳血管疾患、肺炎の順になっています。

主要死因別の割合（平成22年）



年	平成17年	平成19年	平成21年	平成22年
悪性新生物	504人	549人	500人	563人
心疾患	246人	291人	265人	261人
肺炎	199人	185人	194人	229人
脳血管疾患	260人	221人	191人	230人
不慮の事故	69人	67人	63人	69人
自殺	59人	69人	54人	53人
老衰	43人	54人	86人	72人
その他	383人	419人	429人	489人
死亡総数	1,763人	1,855人	1,782人	1,966人

※出典：健康福祉統計（群馬県健康福祉局）

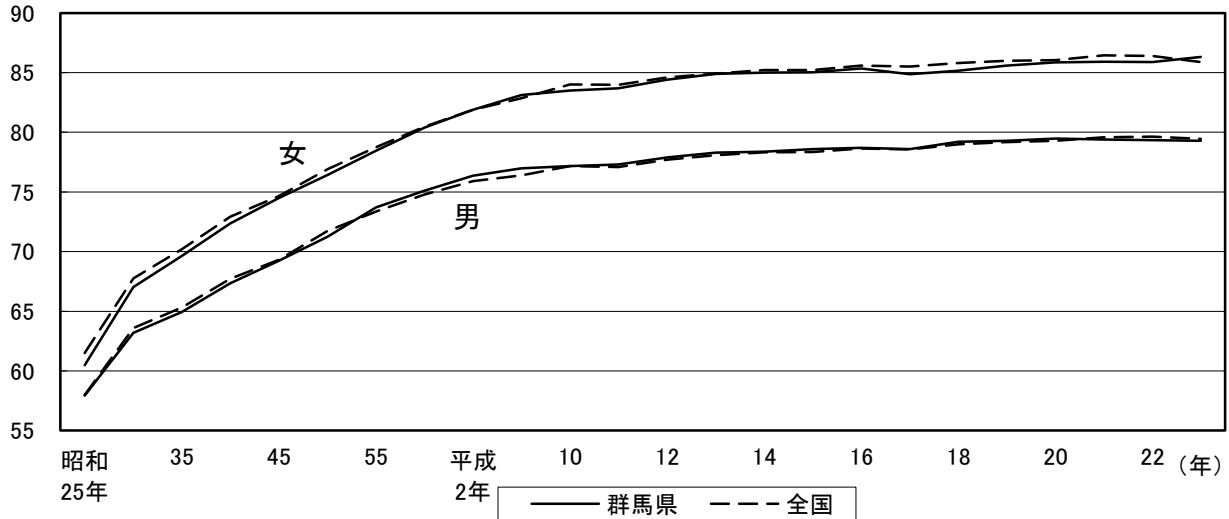
(6) 平均寿命の比較と推移

平均寿命の比較

平成22年

区分	男性	女性
太田市	81.39歳	83.81歳
群馬県	79.35歳	85.89歳
全国	79.64歳	86.39歳

(歳) 平均寿命の推移 (群馬県・全国)

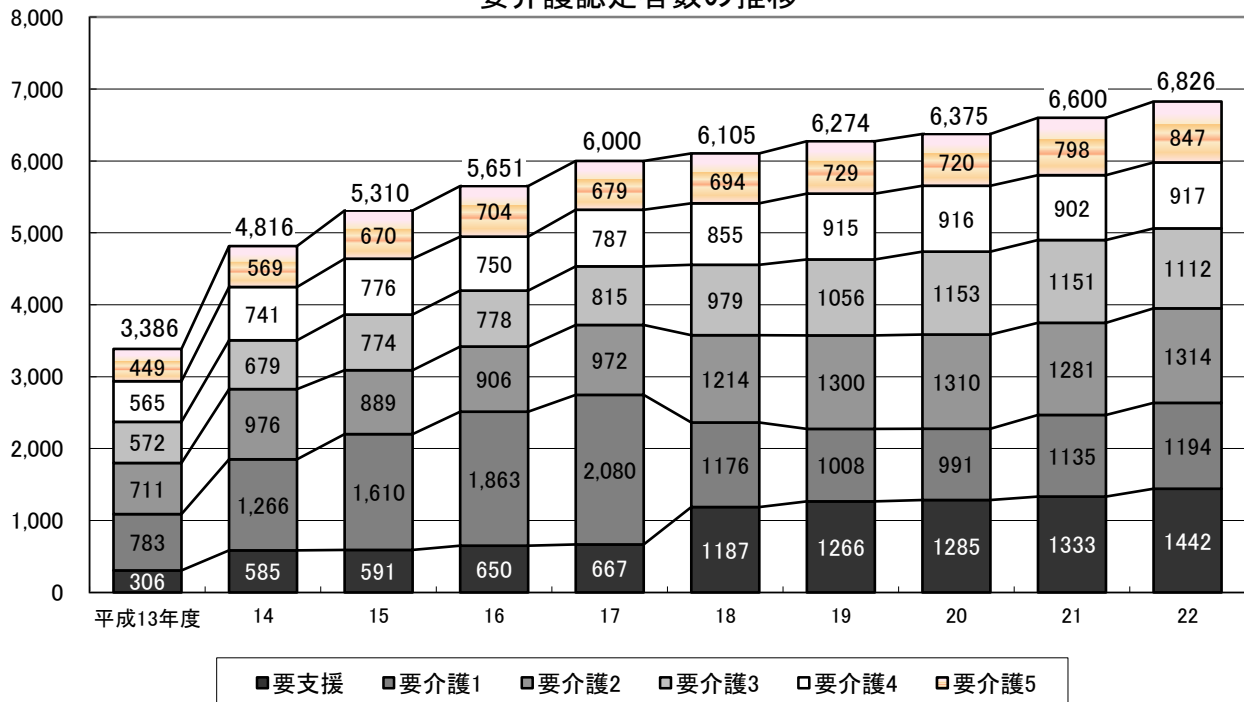


※出典:健康福祉統計(群馬県健康福祉局)

(7) 要介護認定者数の推移

平成12年度から介護保険制度が始まり、要介護認定者の全体数は年々増加しています。

(人) 要介護認定者数の推移

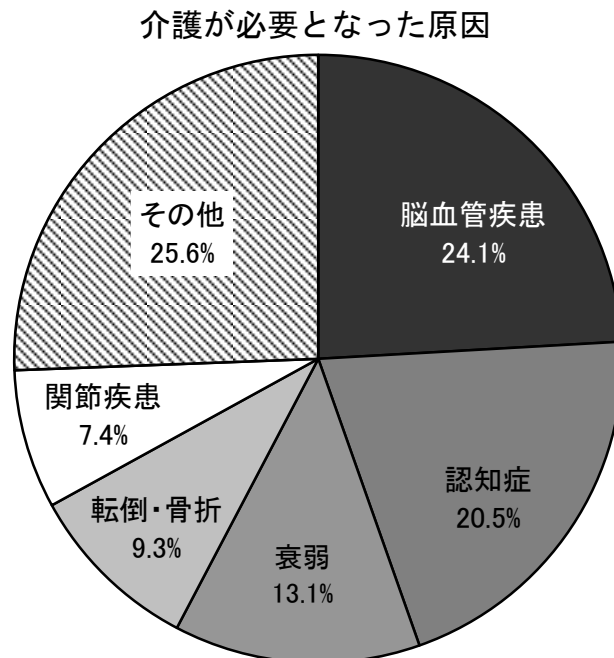


※出典:健康福祉統計(群馬県健康福祉局)

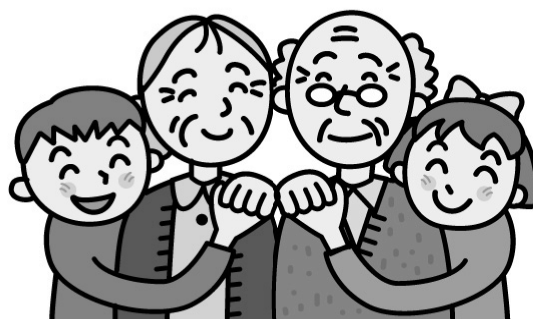


(8) 介護が必要となった原因

脳血管疾患が24.1%と最も多くなっており、4人に1人となっています。続いては認知症の20.5%、衰弱の13.1%となっており、転倒・骨折は9.3%となっています。



※出典：群馬県高齢者保健福祉計画(平成22年)

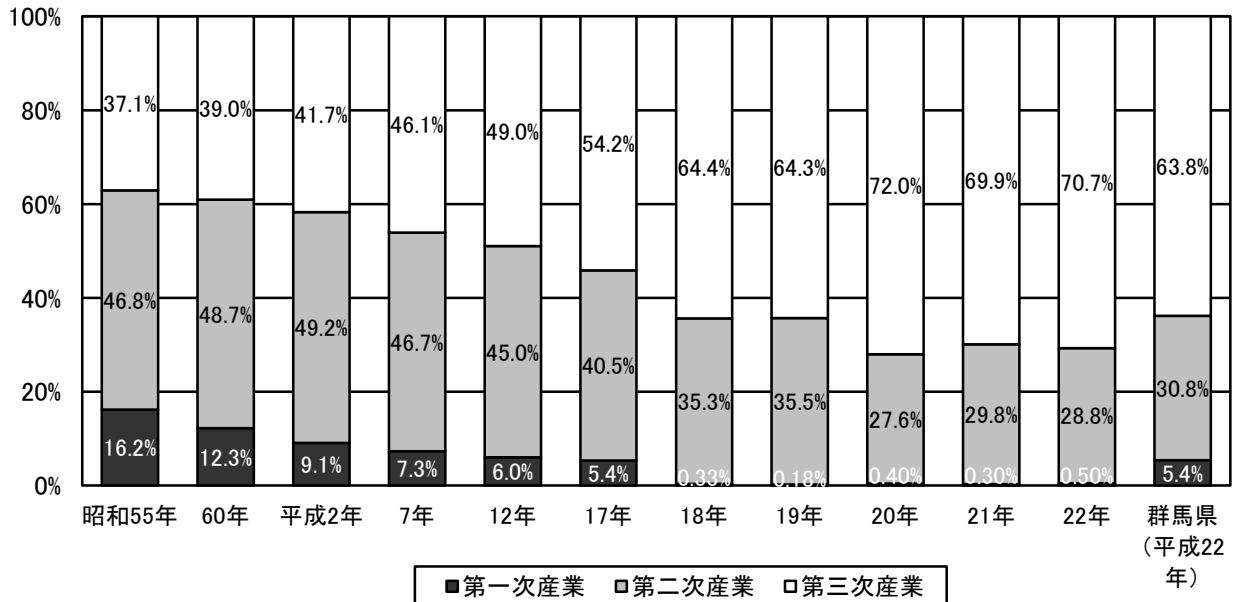


(9) 産業別就業人口(15歳以上)

太田市の産業別就業人口の割合の推移を見ると、第一次産業（農林水産業など）は年々減少しており、第二次産業（製造業など）も近年減少傾向にあります。第三次産業（商業、サービス業など）は年々増加しています。

また、群馬県全体と比較すると、第二次産業の割合が低く、第三次産業は高いです。

産業構造の推移



※出典：国勢調査(平成17年まで)
平成18年～太田市統計より

- 第一次産業・・・農業・林業・水産業
- 第二次産業・・・鉱業・製造業・建設業
- 第三次産業・・・商業・運輸通信業・金融保険業・公務・自由業など
その他のサービス業



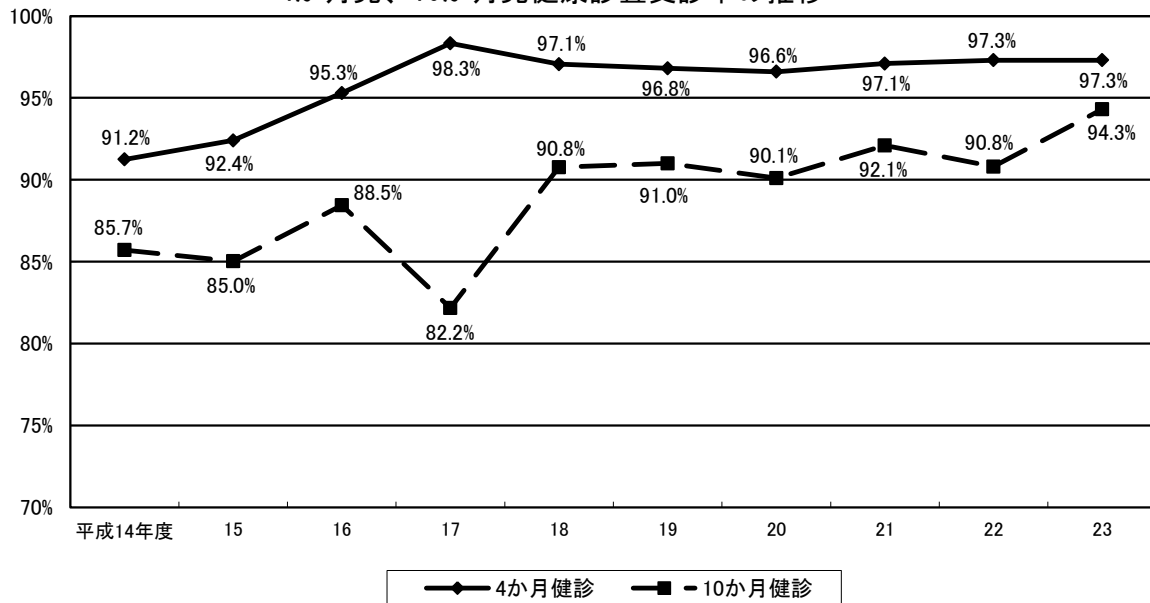
保健事業の現状

(1) 4か月児、10か月児健康診査受診率の推移

4か月児健康診査の受診率は平成14年度から増加しています。平成23年度は97.3%と高い受診率になっています。

10か月児健康診査の受診率は平成14年度から80%台で推移してきましたが、平成23年度は94.3%になっています。

4か月児、10か月児健康診査受診率の推移



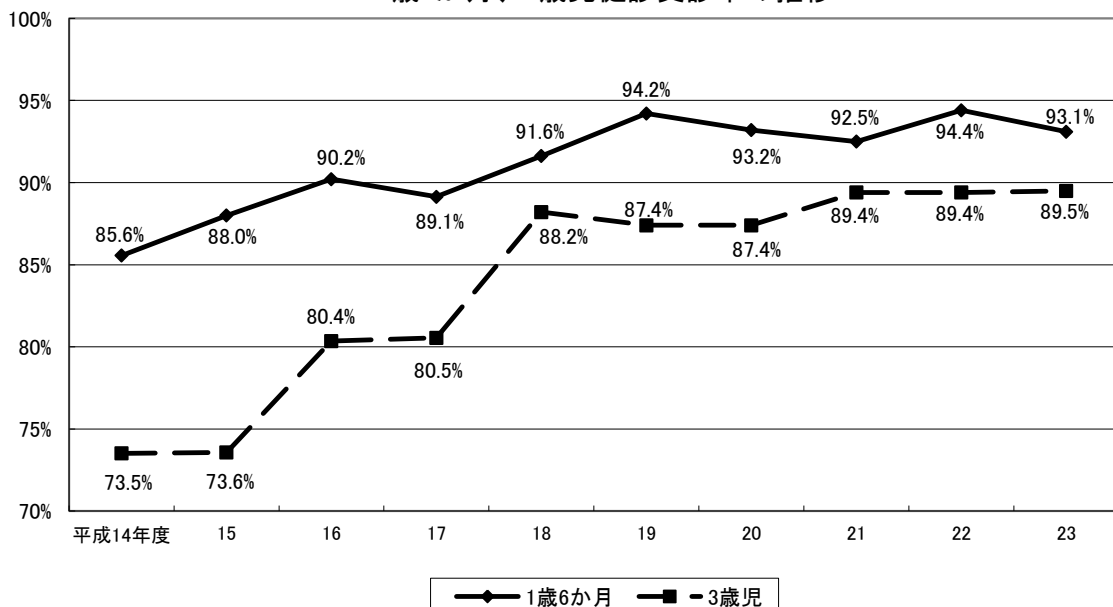
※出典：母子保健事業報告（群馬県健康福祉局）

(2) 1歳6か月児、3歳児健康診査受診率の推移

1歳6か月児健康診査の受診率は約90%で推移しています。

また、3歳児健康診査は1歳6か月児健康診査に比べると受診率は低くなっていますが、平成16年度から増加して、平成23年度は約90%に近づいています。

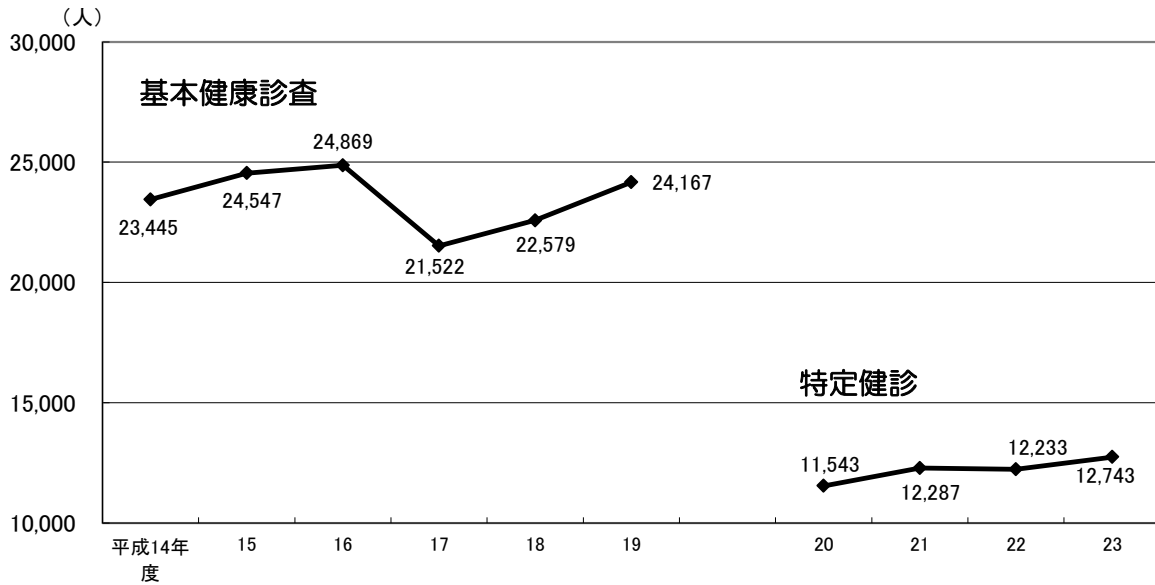
1歳6か月、3歳児健診受診率の推移



※出典：母子保健事業報告（群馬県健康福祉局）

(3) 基本健康診査(40歳以上)→特定健診(国保加入者40歳以上75歳未満)

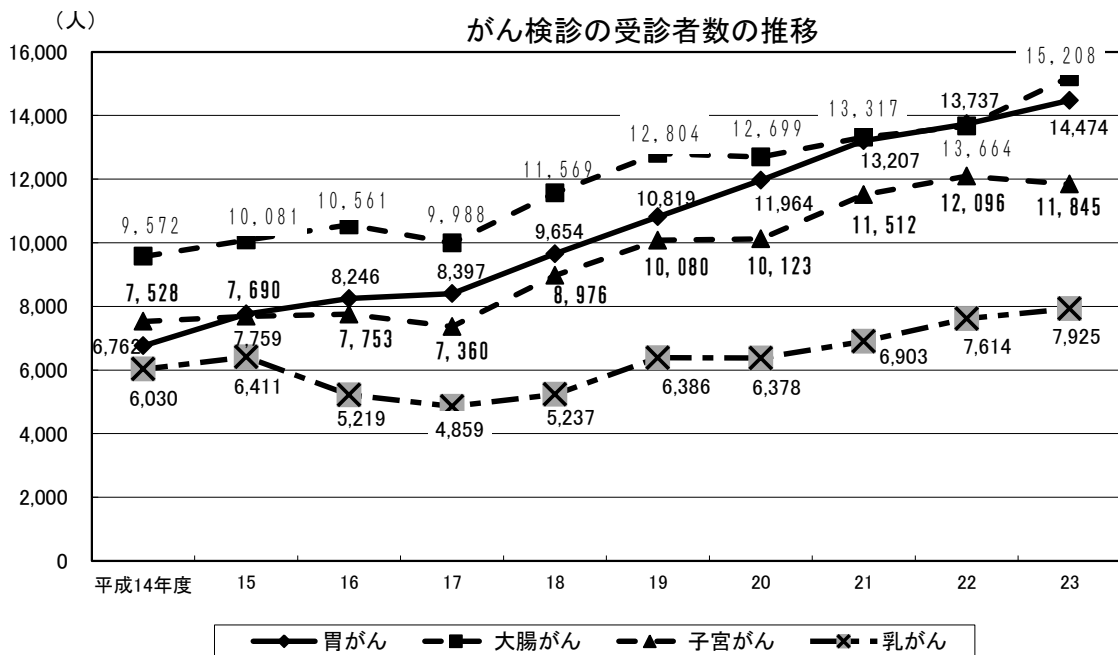
平成19年度までは老人保健法による基本健康診査であったが、平成20年度から特定健診へ移行し、対象者が国保加入者となりました。



※出典：地域保健・老人保健事業報告(平成19年度まで)
法定報告(平成20年度から)

(4) 各がん検診受診者数の推移

がん検診の受診者数は概ね横ばいで推移しており、近年増加傾向にあります。子宮がん、乳がん検診は平成21年度から、大腸がん検診は平成23年度から無料クーポン券発行により受診者数が増加しています。



※出典：地域保健・老人保健事業報告
地域保健・健康増進事業報告
(但し、胃がんは内視鏡、乳がんは視触診を含む)

※乳がん検診は平成16年度から対象者が30歳以上から40歳以上の女性に変更。
※子宮がん検診は平成17年度から対象者が30歳以上から20歳以上の女性に変更。
(但し、集団検診は平成20年度から変更)